

理事長室から

竹屋 元裕



熊本地震から10年の節目を迎えて

今年には熊本地震から10年の節目の年となった。航空自衛隊ブルーインパルスによる展示(鎮魂)飛行をご覧になった方も多いと思う。

地震当時、私は熊本大学の理事・副学長だったが、4月14日(木)21:26の前震(M6.5)をうけて、翌15日(金)に緊急の災害対策本部会議が招集され対応を協議した。ところが、28時間後の4月16日(土)01:25に前震とは比べものにならないM7.3の本震に見舞われ、右往左往したことを鮮明に覚えている。本学でも同様の状況だったことは想像に難くない。授業再開の5月9日(月)の全学集会では、当時の崎元達郎学長から、学生・教職員一丸となった復旧への意気込みと、自ら被災しながらもボランティア活動に取り組んだ学生諸氏への感謝の言葉が伝えられた。幸い、重症者は無く甚大な建物被害も無かったと聞いている。

本学では、熊本地震以前の2012年から、大学間連携プログラム「減災型地域社会のリーダー育成プログラム」を開始し、保健科学基幹科目「災害時における保健医療」をはじめとする防災・減災教育を行い、減災型地域社会リーダーや防災士の養

成にあたってきた。2022年には、「防災・減災教育支援室」を立ち上げ、前年度に閉鎖となった「地域包括連携医療教育研究センター(ちいき楽暮)」が担っていた防災・減災教育を引き継ぎ、2023年には日本防災士機構の防災士養成研修実施機関として認定を受けた。これをうけて同支援室の佐々木千穂教授が中心となって防災士養成プログラムが開始され、翌2024年からは一般市民向けにも開講されている。熊本地震から10年の節目を迎え、改めて防災意識の必要性を再認識するとともに、県内の防災・減災教育の一拠点としての役割を果たしていきたい。



わが家上空から益城町に向かうブルーインパルス(4月11日)

1年間の努力たたえる

令和7年度 成績優秀者を表彰

令和7(2025)年度の成績優秀者表彰式が4月14日(火)、1300講義室Lであり、3学科計21人の学生に竹屋元裕理事長・学長から表彰状と奨励金が贈られました。

同表彰は、昨年度1年間、特に成績が優秀だった学生をたたえるものです。新2年次生から4年次生が対象で、21人の内訳は医学検査学科と看護学科が各学年2人、リハビリテーション学科は専攻ごとに各学年1人。

この日は、各学科長・専攻長ら教職員が見守る中、竹屋理事長・学長が学生一人一人を表彰し、「大切なのは、自分が何をやりたいかということを知っていること。やりたいことを大学の中で見つけ、将来の設計図を描いてほしい」と激励しました。(NL編集部)

写真上は、竹屋理事長・学長から表彰状を受け取る成績優秀学生。同下は表彰式後に記念撮影する教職員と表彰を受けた学生たち



軽食をつまみながらゲームやビンゴ大会などを楽しんだ新入生歓迎会



クラブ紹介では、新入生がお目当てのブースを見つけては熱心に説明を聞いていました



新入生歓迎会

キャンパスは歓迎ムード一色

クラブ紹介

4月2日（木）の入学式から8日（水）までの約1週間、学内では新入生に向けた各学科のオリエンテーションや学友会、ピア・サポーターによる歓迎行事が目白押し。歓迎ムード一色のキャンパスの中で、緊張気味だった新入生の表情も時間とともに少しずつほぐれてきてきました。

7日（火）には新入生歓迎会がレストラン「ピリア」で開催されました。学友会が企画・運営を担当しており、多くの新入生が参加しました。くじ引きで決まった席に着いた新入生たちは、最初こそ緊張した様子でしたが、自己紹介を交わすうちに次第に表情がほぐれ、会話も弾んでいきました。会場には軽食や飲み物が並び、学生たちが列をつくって楽しむ姿が見られました。また、学友会メンバーが主導

してクイズ大会やビンゴゲームが行われ、大学に関するクイズで正解が出るたびに大きな歓声が上がりました。

翌8日には、KMバイオリジクスアリーナでクラブ紹介があり、主催する学友会を含め体育系、文化系合わせて25クラブがブースを設け、新入生に活動内容や魅力をアピールしました。ステージでは、軽音部の演奏やダンスクラブmimicによる華やかなダンスが披露され、会場は大きな盛り上がりを見せていました。「気になったから」と一度に文化系の3クラブに加入した看護学科の学生は「友だちもできたし、大学生生活を思った以上に楽しんでいます」と笑顔で話していました。

(NL編集部)

アカデミックスキル
支援センター

レポート

「アカデミックスキルⅢ」控えリーダー学生研修

プレゼン指導に向け先行学修

全学必修科目「アカデミックスキルⅢ」（2年次前期）の新年度授業が始まるのを前に、授業をサポートするリーダー学生に向けた春期研修会が4月1日（水）～3日（金）の3日間、キャンパステラスで行われ、新2年生の6人がアカデミックスキル支援センタースタッフや先輩学生指導員の指導を受けました。

アカデミックスキルⅢでは、同Ⅱで仕上げた800字程度の意見文（テーマ：赤ちゃんポスト）の内容を基に、2分間のプレゼンテーションを行います。今回の研修では、リーダー学生が授業内容を先行学修し、授業本番で一般受講生への助言などを行います。また、担当教員やセンタースタッフは、研修を通じて不具合の有無などをチェックし、随時、授業内容の修正を行います。

初日の研修では、センタースタッフがプレゼンテーションの構成や表現法、スライドの作り

方などを説明。リーダー学生は自身が書いた意見文の内容を改めて検討した後、発表用原稿やスライドの作成に取り組んでいました。

研修は、授業開始後も週1回の割合で続く予定です。（アカデミックスキル支援センター）



窓外に満開の桜を見ながら、課題に取り組みリーダー学生たち

就職率100%達成

令和7年度

令和7年度卒業生の就職率が、3月末日時点で100%に到達しました。学生の努力はもとより、各学科・専攻のSG担任、就職委員、就職・実習支援課スタッフが日頃から情報を共有し、学生一人ひとりと丁寧に向き合ってきた成果であると考えています。

就職・実習支援課では、4年前から「テラーメイド就職支援」の旗の下、“学生の個性

を活かす” “学生の独自性を引き出す”ことを合言葉に、日々支援を展開してきました。

開学以来続いている就職率100%は、学生と教職員がともに取り組んできた歩みの積み重ねです。今後もこの連携を大切にしながら、学生の未来への一步を支えていきたいと思ひます。

(就職・実習支援課長 平川文丈)

開学時から継続中

看護学科恒例綱引き

チーム一丸
力出し切れ



仲間の声援を受けながら、懸命に綱を引く看護学科の新生たち

看護学科1年次生による「綱引き」が4月10日(金)、KMバイオロジクスアリーナで行われました。「看護セミナー」におけるチームワーク演習の一環として毎年実施されている「恒例行事」です。

当日は、108人の学生が「デコポン」「トマト」など熊本県の名産品にちなんだ8つのチームに分かれて熱戦を繰り広げました。学生たちはチーム内で作戦(綱を引く際の掛け声の工夫や綱の引き方など)を練り、応援旗を作成し、チーム一丸となって綱引きに臨みました。今年は「学長賞(チームワーク賞)」も設けられ、自分のチー

ムだけでなく、他のチームも大きな声で応援するなど、例年以上に一体感のある盛り上がりとなりました。

勝敗に関係なくチーム力の活動を通して得るものが多くあったようで、「新生生でお互いのことを知らない者同士であったが、自然とハイタッチをしていて仲良くなれた」「チームワークの大切さを学んだ」「今後も積極的にコミュニケーションをとりたい」などの感想が聞かれ、活動を通してチームワークの重要性を実感する機会となりました。(看護学科 吉野拓末)

看護学科の魅力って？

教員集い「語り合いカフェ」



活発な意見交換が行われた看護学科の「語り合いカフェ」

看護学科の教員が日々の教育・研究などを自由に語り合う「語り合いカフェ」が3月30日(月)、3318実習室で開催され、約20人の教員が活発な意見交換を行いました。

魅力ある看護学科づくりを目指し、毎年度末に開催されています。3回目となる今回は、冒頭に「ちょこっとシェア」と銘打った新企画を設定。吉田理恵准教授ら3人の教員が1人5分の持ち時間で、参加した研修会やセミナーで得た知見や、気になる書籍の紹介などを行いました。

3つのテーブルに分かれて行われたフリー討議では、参加者が学生の実技能力の評価の仕方、実習時の指導のタイミングやコミュニケーションの取り方など、日頃の自身の取り組みや、そのなかから生じる悩みなどを出し合いながら、意見を交わしていました。(NL編集部)

インタビューを受ける学生たち



■あなたの「デビュー」、助けます!!

TKUテレビ熊本の若者向け情報番組「若っ人ランド」のインタビュー取材が4月15日（水）、本学キャンパス内で行われました。「大学生の大学デビューをお手伝い」しようという企画。リポーターでタレントのちんねんさんとパイナップルつばささんの2人が、通りかかった学生たちをつかまえては「デビュー、したいことは何」と水を向けていました。今後番組では、この日インタビューした学生のうち1、2組の「デビュー」を後押しするそうで、放映は6月頃の予定だということです。（NL編集部）

■命の重さと法改正への対応を再確認 教職員を対象とした安全運転講習が4月7日（火）、損害保険ジャパン熊本支店の本田龍馬さんを講師に迎え、50周年記念館で開かれました。冒頭、参加者は、交通事故の被害者遺族や当事者のその後を追ったDVDを視聴。一瞬の不注意が本人や家族の人生を一変させる現実に、

参加者は安全運転の重い責任を改めて胸に刻みました。本田さんは、死亡事故率が約3.4倍に跳ね上がる「ながらスマホ」の危険性や、生活道路の法定速度が時速30kmに制限される2026年4月の法改正について解説しました。なお、同日は新入生に対しても安全運転講習が行われました。（NL編集部）



安全運転講習会の会場

インフォメーション

行事予定（4月20日～5月8日）

4/26（日）	西里校区グラウンドゴルフ大会
5/2（土）・3（日）	フラワー&フーズフェスティバル@フードパル熊本（健康チェック）

※「NEWSLETTER327号」は5月8日（金）に配信します。